

異業種ロダン21クラスター会議

株式会社ロダン21 事務局 柳生

今後の異業種活動にご提案

- (1) 会議時間の短縮
- (2) 情報共有だけが目的の会議の略化
- (3) 近況報告は会議室の近くのオープンスペースの立ち話への変更

(提案1) 会議時間の短縮

理由

約3年間クラスター会議に参加してきて感じたことの一つに、90分より早く終われる会議でも、終了予定時間までダラダラと浪費してしまう傾向があると感じました。

「集まったメンバー同士のカジュアルな会話の中でユニークなアイデアが生まれる」と言う意見もありますが、日本の企業数十社の追跡結果では、アイデアが生まれるのは「会議室周辺（会議前後の立ち話）やオープンスペース」の確率が70%以上とかなりの割合を占めていました。そのほか食堂やカフェが占め、会議室は最下位です。

会議はすべて撲滅すべきものではないと思いますが、異なる知見を持つメンバーを集め、アイデアを掛け合わせて顧客の悩みを解決し、かつメンバーのやる気を増していく。堅苦しいだけの会議や、ちょっとしたデメリットをダメ出しし続ける人のいる会議ではなく、複雑な問題を解決するために集まったメンバー同士のカジュアルな会話の中でユニークなアイデアが生まれる。それが「会議」だと思っています。

会議を60分ぐらいにぎゅっと縮め、会議室での滞在時間を縮め「儲かる話」の質を高める提案をします。また、今時の経営者は60分以上の会議を避ける傾向にあります。若い経営者の方を引き連れてくるというお話にもかなり有効に働くと思います。

（提案2）情報共有だけが目的の会議の略化

理由

10人以上集まって1人ずつ週報を説明するような「よくある会議」は効率が高いとは言えません。ネットに載っている情報の確認をさせたり、企業の状態をただ確認し合う会議は、「Chatwork」や「Teams」「Slack」などのITツールでカバーできます。

話し合いをしているだけなのに、つい仕事をした気になってしまう会議になっている気がします。「教育・啓蒙会議」は、質疑に重きを置くものは対面式に。確認が主なものはITツールを活用する、でも良いのではないのでしょうか。

ロダン21の第一目的は「モノづくり試作相談」だと窺っています。目的が明確に決まっている会議を、今後も継続してほしいと思っています。

（3）近況報告は会議室の近くのオープンスペースの立ち話への変更

理由

上記二つの提案理由を踏まえて、18時半～19時半までの内容を込めた会議の後に、会議室で、ではなく、オープンスペースや各自開催の食事会で行なってはいかがかと思えます。仲を深めるため、分科会の活性化、また異業種間のモノづくりの話ももっと広がるかと思えます。そのモノづくりにロダンという母体を活用して、人脈を拡大のお手伝いが事務局としても今後、できればと思えます。

会議はあくまでビジネスを形にするまでの過程なので、できるだけ短時間で終わらせたい、というのが若者の一人の意見です。ご検討ください。

以上